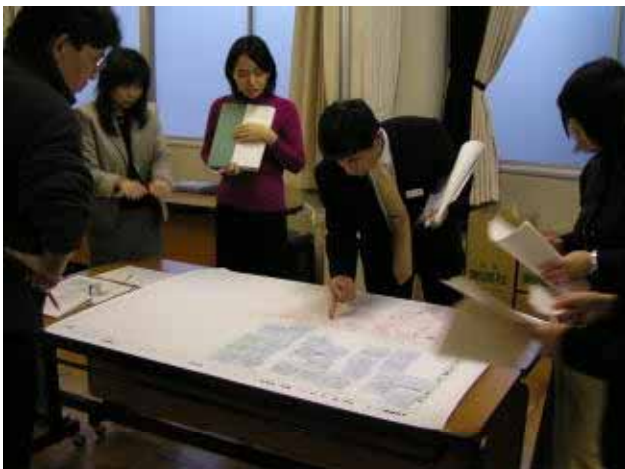


授業評価と授業研究会に関する参考資料(高等学校)

— 校内研修を通じた授業改善を目指して —



栃木県総合教育センター
平成20年3月

はじめに

これまで、高等学校では、生徒の学力向上のために、授業の工夫改善はもとより、補習、課外授業、課題研究など、様々な取組を進めてきました。進路指導における個別の指導は、まさに個に応じた指導そのものであります。これらの多くは、生徒を対象として、基礎学力の定着を図ったり、学習の習慣付けや学習意欲の喚起を図ったりして、学力を向上させようという取組でした。先生方の労を惜しまぬ献身的な努力によって、学校教育は支えられてきたと言っても過言ではありません。

また、近年では、ほとんどの学校でシラバスが作成されるようになり、学校評価の一環としての授業評価も多く的高等学校で行われています。これらの取組は、教師が自身の指導を改めて振り返ったり見直したりすることができる点で、教師の授業力の向上を図る取組でもあります。

言うまでもなく、学校の教育活動の柱は授業であり、教師には授業力向上へのたゆまぬ努力が求められています。教師の授業力は、個人的な資質や研鑽に支えられた職人的な側面もありますが、これからは、授業評価や授業研究等を通して、組織的に、協働的に、その向上を図ることも大切です。近年では、ワークショップ型授業研究会を通して授業改善を図る取組が、全国的に注目を集めています。

授業評価には、「生徒による授業評価」、「教員相互による授業評価」、「保護者、地域住民、学校評議員による授業評価」等がありますが、本冊子では、「生徒による授業評価」、授業研究会を通じた「同僚教師による授業評価」に関する実践を紹介します。また、一人一人の教師が自らの授業を振り返り、授業を改善していく中で、授業力の向上を図っている事例や、授業評価を実施する際のポイントを紹介します。各学校においては、よりよい授業を創造して生徒の学力を向上させるために、そして、一層信頼される学校づくりを進めるために、本冊子を御活用ください。

終わりに、本冊子の作成にあたり、御助言をいただいた、国立教育政策研究所教育課程教育課程研究センター研究開発部 田代 直幸 教育課程調査官と、授業評価及び授業研究会の実践研究に御協力をいただいた調査研究協力校の方々に深く感謝申し上げます。

平成20年3月

栃木県総合教育センター所長

五味田 謙一

目 次

| | |
|-------------------------------------|----|
| 調査研究の概要 | 1 |
| 第1章 授業評価に期待される効果と課題 | |
| －「授業評価に関するアンケート」から－ | 2 |
| 1 調査及び調査結果の概要 | 2 |
| 2 授業評価に期待される効果と課題のまとめ | 5 |
| 第2章 授業リフレクションの手法を用いたワークショップ型授業研究会 | 6 |
| 1 ワークショップ型授業研究会Q & A | 6 |
| 2 研究授業における「授業観察」の方法 | 8 |
| 3 授業リフレクションの手法を用いたワークショップ型授業研究会の進め方 | 9 |
| 4 授業研究会の性格を左右する付箋の分類の仕方 | 12 |
| 5 ワークショップ型授業研究会の参加者の声 | 14 |
| 第3章 授業評価を生かした授業の改善とワークショップ型授業研究会の実践 | 15 |
| 1 グループ活動による学び合いを目指した授業改善（事例1） | 15 |
| 2 生徒と同僚教師による授業評価を生かした授業改善（事例2） | 19 |
| 3 同僚教師による授業評価を生かした授業改善（事例3） | 22 |
| 4 授業評価を生かした学び合う授業づくり（事例4） | 25 |
| 第4章 組織的に学力向上に取り組むための校内研修の取組 | |
| －本資料を活用して実践事例に学ぶ－ | 28 |
| 1 ワークショップ型研修で実践事例に学ぶ | |
| －第1回調査研究委員会にて－ | 28 |
| 2 ワークショップ型研修で実践事例に学ぶ | |
| －新任学習指導主任研修会（小・中学校）にて－ | 28 |
| 3 ワークショップ型研修を校内研修で ー本資料の活用例ー | 30 |
| 第5章 授業評価の目的と目的別の授業評価シート | 31 |
| 1 授業評価の目的 | 31 |
| 2 目的別の授業評価シート | 32 |
| 引用文献・参考文献・参考URL | 42 |

調査研究の概要

総合教育センターでは、「高等学校における授業評価に関する調査研究」として、生徒や教員による授業評価を生かした授業の工夫改善と、教員が学び合う校内研修の在り方について研究を進めてきました。

1 授業評価に関する意識調査の実施

この調査研究の一環として、授業力向上のための方策を探ることを目的として、平成19年の5月から6月にかけて、「授業評価に関するアンケート」を実施しました。

調査は、本研究の調査研究協力校4校の教員と、平成19年度の、教職5年目、教職10年目、教職20年目の各研修受講者を対象に実施し、合計362人から回答を得ました。

2 授業評価に関する調査研究委員会

4校の調査研究協力校からそれぞれ1名の参加者を招き、授業評価に関する取組の情報交換を行うとともに、本研究に関する共通理解を図りました。また、本調査研究委員会に国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部の田代直幸教育課程調査官を助言者として招き、「授業評価を実施するにあたって」と題した講話とワークショップを通して貴重な助言をいただきました。

3 授業評価を取り入れた授業の実践及び授業研究会

4校の調査研究協力校において、それぞれ2回ずつ、授業評価を取り入れた授業の実践及び授業研究会を実施しました。6月に実施した最初の授業評価、研究授業及び授業研究会で、様々な観点から診断的な評価を行い、改善の視点を明らかにしました。その後、重点項目に焦点を当てて課題を設定し、改善に取り組みました。9月以降に実施した授業評価、研究授業及び授業研究会においては、重点項目に関する評価を中心に検証を行いました。

○調査研究協力校（4校）

栃木県立宇都宮北高等学校

栃木県立小山高等学校

栃木県立佐野松陽高等学校

栃木県立黒磯南高等学校

○指導・助言者

国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部

教育課程調査官 田代 直幸

○研究委員（5名）

栃木県総合教育センター 研究調査部 副主幹 小森 祥一

栃木県総合教育センター 研究調査部 副主幹 吉澤 正光

栃木県総合教育センター 研究調査部 指導主事 日下田 静夫

栃木県総合教育センター 研究調査部 指導主事 小川 浩昭

栃木県総合教育センター 研究調査部 指導主事 吉川 孝昭